

2024 年度 学校法人 三幸学園 沖縄リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 坂東 真弥

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 山下 直樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

前年度重点施策振り返り

＜教務目標＞■各学科・コースの業界、授業に魅力を感じ、生徒が学びがいを持って学校に通っている

（参考→出席率・単位不良数・授業アンケート・卒業生アンケート資格取得率など）

■関係の質にこだわり、日々、一人一人の生徒と向き合い続ける

■挨拶・規律の強化

■進級・卒業率向上・・・全学年 93%

＜キャリア・就職目標＞進路決定率 100%

① 学校関係者評価委員会コメント(坂東委員)

授業アンケートの結果は、授業に対する先生の熱意を感じる 3.90(4点満点中)、授業方法は生徒の興味をひくように工夫されていた 3.83(4点満点中)など、重要視している項目は全国同分野姉妹校 10 校の中で最も高い結果となり、卒業生アンケートの結果に関しても、在学中を通してどのように感じられましたか(教職員の熱意・愛情) 3.75(4点満点中)、本校で成長することができましたか 3.72(4点満点中)など、重要視している項目は全国同分野姉妹校 10 校の中で最も高かった。一方、授業中の私語や居眠り、授業前後の挨拶などの規律やマナーに関しては、全国同分野姉妹校の中でも中間に位置している。工夫を行いながら授業展開や学校運営を行っていたが、先生方や担任メンバーが一丸となり、今後さらに魅力的な授業を行うとともに、規律や挨拶なども整えていきたい。

進級・卒業率は 89.9%と目標に届かない結果となった。昨年より 1.5 ポイント改善されたが 2 年生の卒業率に課題が残る結果となっており、進路変更や就職してしまう、生活習慣のみだれなどから遅刻・欠席を繰り返し、単位不良、退学に繋がってしまうといったことが多くあったので、1 年次から継続して業界や授業の魅力の伝達、良い生活習慣、登校習慣などを作っていくノーム作りを強化し、改善に繋げていけるように 2025 年度は取り組んでいく。

進路・就職決定率に関しては、卒業式までに 100%と非常に良い結果を出せたので、今後も継続できるように努めていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 授業アンケートの結果で重要項目の内容は、全国同分野姉妹校10校の中で上位に位置したことは、授業内容及び学校運営の創意工夫が伝わり高評価に繋がったと思われます。(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)
- ・ 進学・卒業率は、昨年より 1.5 ポイント改善されましたが、目標に届かない点については学校環境の向上を目指し改善に取り組まれて下さい。(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)
- ・ 本校で成長することができたかの数値は、全国同分野姉妹校 10 校の中で最も高く学校での自己成長を基に卒業後、社会での更なる成長の期待が持てます。一方、1 年生の進級率に関しては、早い段階でのノーマ作りを期待します。(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・ 理念・人材育成像を明確に掲げ、提示・説明しているが、様々な場面で繰り返し伝えつつけていく必要がある。
- ・ 学んだ知識や技術を、しっかりとアウトプットできる人材育成を強化していく必要がある。

③ 今後の改善方策

- ・ TEAMS を活用し、日頃からタイムリーに情報を共有できるようにする
- ・ 全体会議など、繰り返し様々な場面で理念・人材育成像を伝え続けていく。
- ・ 総合演習や実習、セミナーや産学連携、学校行事などを通じて、学んだ知識や技術を学生の間からアウトプットする機会に主体的に参加する学生を増やしていく。

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 理念・人材育成像を明確に掲げ、提示・説明について引き続き生徒に伝え続けて下さい。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ 共有アプリ(TEAMS)で、情報の共有・各教員間とのコミュニケーションを取り、ディスカッションアイテムとして活用を行う方策は、有効で、来年度の評価に期待します。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ 2026 年度より観光科向けに留学生向けのコースを設置していくため、社会経済のニーズ等を踏まえた学校構想を抱けるように対応していく。（小川さん:リゾート観光ホテルエアライン科について）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- 適切な学校運営を行えている箇所が多いが、コンプライス体制に関しては、教職員全員の意識と行動が高いレベルというには至っていない為、引き続き研修や管理を行っていく。
- 情報共有・収集の強化、システム化などをより進め、働き方改革を進め、より効率的かつ効果的な業務遂行、学校運営を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- 学園本部よりコンプライアンス研修を実施し、個人情報保護や SNS リスク、ハラスメント対策など教職員全体が適切な知識と対応をとれるようにする。
- 全国に姉妹校があるスケールメリットなども活かした、情報収集などによる効率化、情報システム化、業務の仕組化、OJT・OFF-JT による育成システムの構築による教職員のレベル UP を図る。

③ 特記事項

- タブレットを活用して出席管理を行うこと、TEAMS などを使い情報共有を行う、経費採算システムなど、ここ数年間で新たに導入したシステムを軌道に乗せることができている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- コンプライアンスについては、近年の社会情勢の基準になっております。
コンプライアンス研修を通じて、個人情報保護や SNS リスク、ハラスメント対策など教職員全体が適切な知識と対応をお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- タブレットを活用したシステム運用の向上の成果が伺えます。今後も継続をお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- 中途入社の方にもコンプライアンス研修の実施をお願いできればと思います。（浅井委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・ 関連分野や関連企業・団体との連携の強化を行い、今後も提携先企業や実習先を増やしていく必要がある。また生徒への動機づけなどを強化し、実習などの参加者を増やしていきたい。
- ・ 教員の指導力向上や先端的な知識や技能を習得する機会や、研修の場をより増やしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 業界との繋がりを強化、実習先の充実、教職員の知識習得に繋がられるよう、積極的に情報収集や企業訪問を実施する。
- ・ 卒業生などにも協力してもらい、実習などに対する生徒への動機づけを強化する。
- ・ 教員研修を積極的に実施していく。また授業見学 WEEK を設定し、お互いに学びあい、指導力を向上させていける環境を作っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 関連分野や関連企業・団体との連携した実習活動を引き続き行い、実習先の充実をお願いいたします。
(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)
- ・ 卒業生も多く輩出していることから、今後は卒業生との連携を強化し、教育活動への還元や学びの深化につなげていけると望ましい。(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)
- ・ スポーツ関連分野でのアルバイト経験は、採用においても評価されやすく、学生にとっても学びを実践する貴重なアウトプットの機会となるため、今後はアルバイトの斡旋を一層促進していけると良いと思います。(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科について)
- ・

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・ 開校より4期連続、就職率は100%であったが、生徒が増えてもこの結果を継続し、沖縄県内を中心に就職先を更に充実させていく。
- ・ 資格取得率を向上させていくこと。
- ・ 退学率を低減させていくこと。（特に2年生の退学率）
- ・ 卒業後の卒業生との関係性の構築していくこと。（卒業生用公式LINEや、学園独自のシステムなど関係性を構築できる環境は整えられている）

② 今後の改善方策

- ・ 高い資格合格率・取得率の継続⇒教科会の定期開催、授業・資格対策の質向上
- ・ 主要資格での高い取得率実現、その他資格取得率の向上。⇒ 姉妹校との連携強化、教科会の定期開催、授業・資格対策の質向上。
- ・ 退学率低減 ⇒ 授業・学校生活での業界魅力伝達の強化（特に早い段階での楽しさ、達成感の創出）、保護者との連携強化。担任制度をチーム担任制にし、生徒やクラスの状態にあった教員が対応できる体制を整備。生徒との関係の質を大切に、特に初めの段階でどの担任、どの先生に相談してもOKなことを伝達し、学科、クラス、担任の枠を超えて生徒と関われるようにする。また定期的にアンケートを実施し、悩みなどを把握、相談しやすい環境作りを実施。
- ・ 卒業後の関係性の構築 ⇒ 構築している仕組みを軌道に乗せていく

③ 特記事項

- ・ 全国に展開している姉妹校との連携により、資格取得や就職に向けた傾向と対策を実施。また退学率低減についても教育開発部が主導となって、退学者への様々なアプローチを実施し、低減に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 開校より4期連続の高い就職率(100%)については、授業内容の創意工夫と就職先への働きかけによる成果です。今後、生徒が増えてもこの結果を継続し、沖縄県内を中心に就職先を充実させるよう、引き続きお願いいたします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・ 進路・就職支援体制に関しては、沖縄県内への就職希望者が多いことを踏まえて、沖縄県内での求人の獲得強化が課題。
- ・ 生徒がより悩みなどを相談しやすい環境、関係性を作っていきたい。
- ・ 学校独自の特待生制度や、学費サポート制度、スクールカウンセラーの設置、学園本部と連携しスクールソーシャルワーカーの設置など体制を整えているが、制度だけでなくチーム担任を中心として、学生がより相談しやすい学校、生徒の変化に教員から気付き声をかけられる学校にしていきたい。また、卒業後の支援体制も軌道に乗せていきたい。

② 今後の改善方策

- ・ 企業訪問、連携などを強化し、沖縄県内からの求人確保に努める。
- ・ チーム担任制を導入し、生徒に初めの段階でどの担任、どの先生に相談しても OK なことを伝達。また定期的にアンケートを実施し、悩みなどを把握、相談しやすい環境作りを実施。
- ・ 生徒との関係の質を大切に、この先生・この学校は信頼できる、相談できるといった関係性を構築していく。生徒やクラスの状態にあわせて、あつていそうな教員が面談や対応を実施。入学・進級直後での面談に加えて、学科、クラス、担任の枠を超えそれぞれの教員が各クラスに顔を出し、生徒の変化などを確認する、声をかける機会を増やす。また、教員間での情報共有をより加速させていく。⇒生徒の変化などをよりタイムリーに把握し、必要に応じて保護者の方にも協力頂き対応していく。
- ・ 生徒のメンタルケアをサポートするため、スクールカウンセラーを設置しタイムリーに対応していく。
- ・ 生徒が抱える様々な問題を解決する為に、スクールソーシャルワーカーを設置しタイムリーに対応していく
- ・ 同窓会 Sanko-Link や、卒業生用公式 LINE を活用し、卒業後の支援体制を軌道に乗せていく

③ 特記事項

- ・ 全国の姉妹校との連携を活かして、オンラインも有効活用しての進路・就職支援制度の整備は進んでいる。

- ・ 高校と連携し、部活動や、キャリアに対するサポート、取り組みを積極的に実施できている。
- ・ 保護者連絡ツール「スクリレ」を導入し、保護者にも学校の取組を把握いただくために情報提供している。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 学生が安心して楽しい学校生活を送れる環境作りを今後も継続をお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ チーム担任制について教育に携わるすべての先生に相談できる試みは、学生が気軽に悩み・相談が出来る支援だと思います。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ 全国の姉妹校とのオンラインを活用しての進路・就職支援制度の整備や保護者連絡ツール「スクリレ」の導入等で情報提供を通じて、学校・保護者・学生の信頼関係向上に繋がる施策を引き続きお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・ 今後も実習やインターンシップ先の確保、質の向上を進めていく必要がある。
- ・ 施設設備の更なる整備が課題。

② 今後の改善方策

- ・ 積極的に情報収集や、企業訪問を行い、実習施設やインターンシップ先の充実を図っていく。
- ・ 教員（非常勤講師含む）、姉妹校や高校、企業や教会との繋がりなども活用しながら、学内外での実習を充実させていく。
- ・ 施設設備の経年劣化より、プロジェクターの備品のリニューアルし、ビルメンテナンス企業様との連携を強化していく。

③ 特記事項

- ・ 全教室に PC プロジェクターが設置されており、Wi-Fi 環境も整っている。
- ・ FC 琉球様、琉球ゴールデンキングス様、琉球コラソン様、琉球アスティータなどのプロチームや、高校の部活動など連携し実習活動を行っている。
- ・ 海外研修（アメリカ）の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 施設設備の経年劣化より、プロジェクター他、設備に関しての保守管理等、ビルメンテナンス企業と強化及び、防災、安全管理につきましても、火災避難訓練を毎年実施し教員・生徒の安心・安全な教育環境の継続を引き続きお願いします。（山下委員：スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ 全教室に PC プロジェクターの設置、Wi-Fi 環境の充実で教育環境向上について評価します。（山下委員：スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ プロ、アマ問わず各スポーツチームを通じて実習活動の場を設ける活動を引き続きお願いします。（山下委員：美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科について）海外研修制度の実施により生徒のキャリア向上が期待できる制度に期待します。（山下委員：スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ トレーニングルームの安全性および機能性を維持・向上させるためには、定期的なメンテナンスが不可欠です。今後は内製的な対応として、専門的な授業を担当している教員の協力を得ながら、機器の点検・保守を行う体制を構築する必要があります。（浅井委員：スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ 定員充足率を 100%にする
- ・ 奨学金や高等教育無償化に関して、高校でしっかりと説明を受けていないケースが多くあるので、オープンキャンパスなどを活用して、本校からも説明や告知を行っていく必要がある。
- ・ 県内高校の大学進学率増加。

② 今後の改善方策

- ・ SNS にて学校の魅力を発信する、進路ガイダンスに積極的に参加する、早期対策などを含めた広報活動の更なる対策強化を行う。
- ・ オープンキャンパスや、進路ガイダンス、高校訪問などで十分に説明、告知を行っていく。
- ・ 県内高校の大学進学率や県外に進学する高校生の増に伴い、大学と専門学校との違いや県外に進学する費用の差などを説明していく。
- ・ 県内高校の大学進学率増に伴い、大学と専門学校との違いを説明していく。

② 特記事項

- ・ 一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。併せて、沖縄広報室からの支援も受けて募集活動に取り組んでいる。
- ・ 出口(就職先からのニーズ)、入口(日本語学校、留学生からのニーズ)、国や県の方角性などを踏まえて 2026 年度入学生より留学生向けコース設置予定

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 将来への高い希望をもって入学した学生を奨学金や高等教育無償化等の問題で就学意欲の低下による学力低下や早期退学の事態が起きないようにオープンキャンパスや、進路ガイダンス、高校訪問などで十分に説明、告知を行っていく取り組みをお願いします。(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)
- ・ 社会情勢に反映した、留学生向けコース(2026 年度入学生より)設置について、期待しています。(山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)
- ・ 近年、就学支援金制度において所得制限の撤廃や、多子世帯への新たな支援対象拡大といった変更が行われており、これにより支援の対象となる家庭が広がっているが、高校生や保護者においては、これらの制度変更について正確に把握されていないケースも見受けられるため、今後も必ず案内することを徹底する必要

があります。(水澤委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について)

(8)財務

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2024 度も様々な課題に直面しながらも、教職員一同が創意工夫を重ねながら学校運営を推進し、様々な取り組みを実施することができました。その成果として、4 期生を無事に良い形で卒業へと導くことができました。

特に就職面では、卒業式時点で就職率 100%を達成し、多くの学生が希望する業界内での就職を実現しました。これは、業界との強固な連携や実践的な指導体制の成果であり、今後も継続していきます。

また、社会貢献・地域貢献活動にも積極的に取り組み、地域と連携した実践的な学びの場を提供できており、学生にとっても意義深い経験の機会となっています。これにより、充実した実習環境の提供が実現しています。

一方で、2 年次における退学率の高さが課題として挙げられます。今後は、講師・常勤職員が一体となり、実習への動機づけをはじめとした支援体制の強化を図り、学生の継続的な学習意欲を高める取り組みを重点的に進めていきます。

今後も、地域・企業との連携関係のさらなる強化、教員の資質向上を目的とした研修や情報収集の積極的な実施、社会のニーズに対応したカリキュラムの開発と授業の質向上を意識し、これらの取り組みを通じて、沖縄県および日本の健康課題の解決や、スポーツ・観光業界の発展に貢献できるよう、沖縄校の更なる飛躍を目指してまいります。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・ 自己評価で浮き彫りになった課題を解決していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 各項目、自己評価で浮き彫りになった課題に対して、しっかりと改善策を実施していく。

④ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 引き続きコンプライアンスを遵守、情報公開を行い適正な学校運営をお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- ・ 評価項目の「自己評価の実施と問題点の改善に努めているか」について昨年度より、点数の評価が上り、施策効果向上が、見られます。引き続きお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

- 積極的に社会貢献活動・地域貢献活動を実施できているので(SDGS に繋がる活動、最新技術・機器を活用した部活動応援プロジェクト、チームや部活、選手への施設の貸し出しや、サポートなど)、継続・強化していくこと。

② 今後の改善方策

- 社会貢献活動・地域貢献活動・ボランティア活動を引き続き継続・強化していく。
- 教育訓練の申請が通ったので、今後積極的に受け入れを行っていく。

③ 特記事項

- 琉球ゴールデンキングス様や、琉球コラソン様、陸上日本代表選手、高校の部活動など様々な団体、選手などに対して施設の貸し出しや、サポートを実施している。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- 教育訓練の申請承認が、評価項目の加点に繋がり、積極的に教育訓練の実施をお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）
- SDGsに繋がる活動、最新技術・機器を用いた各スポーツ教室等、社会・地域貢献活動・ボランティア活動の継続を引き続きお願いします。（山下委員:スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・リゾート観光ホテルエアライン科について）